

2011年10月24日

各位

双日株式会社

双日、ドイツでメガソーラー事業を開始
～24メガワットの発電容量にて、再生可能エネルギー利用を推進～

双日株式会社は、ドイツの首都ベルリンから南方に100キロメートルのミックスドルフにおいて、メガソーラー大規模太陽光IPP（独立発電事業者）事業を開始します。総事業費は5700万ユーロ（約63億円）で、発電容量は24メガワットと同国でトップクラスのメガソーラー事業となります。双日は、2010年よりドイツ南部のベッツヴァイラーにおいて発電容量3メガワットの太陽光発電事業を進めており、今回の案件は双日として2例目となります。



【ドイツ・ミックスドルフの太陽光発電所】

今回設立した「ソーラーパークミックスドルフ（Solarpark Mixdorf）発電所」は、約80ヘクタール（東京ドーム約20個分）の土地に、太陽光パネルを約10万枚敷き詰める大規模なものとなります。発電所は、2011年7月末に完工し、同月より稼働開始、現在も安定した電力供給を行っています。また、双日は、ドイツの電力公社イオン・エディス社（EON-Edis A.G. 本社：ドイツ・ブランデンブルグ）と20年間の長期売電契約を締結し、同国のフィードインタリフ（Feed In Tariff (FIT)、固定価格買い取り制度）にて定められた0.2207ユーロ/kWh（約24.2円）にて販売します。

また、今回の発電所の設計、調達、建設・試運転（EPC）は、欧州の太陽光発電事業において当社と提携関係にあり、ドイツの大手太陽光発電事業会社であるヴィルソル社（Wirsol Solar A.G. 本社：ドイツ・ブリュッセル、代表者：Nikolaus Krane）が行いました。

太陽光発電の全世界での導入量は、2010年12月末時点において、環境事業法案が整備されている欧州各国が牽引役となり、40ギガワットに達したと推定されています。特にドイツでは、2004年に改正された同国再生可能エネルギー法に基づき、原子力発電に頼らない再生可能エネルギーの普及を積極的に推進しており、世界導入量の43%にあたる約17ギガワットを導入している再生可能エネルギー先進国です。また、同国は2030年までに再生可能エネルギー比率を全体の50%にする目標を掲げており、今後も継続的な成長が見込まれています。

双日は、2009年から始まる中期経営計画「Shine2011」において、環境・新エネルギー分野を「新規育成分野」と位置付け、2011年4月より専門組織「環境・都市インフラ推進室」を立ち上げました。当室では、将来の収益ドライバーとして時代に不可欠となるスマートビジネス分野に注力し、環境配慮型の社会・生産インフラの整備・運営及びIT技術革新に高付加価値サービスの提供等での収益確保を目指しています。また、太陽光発電事業で得たノウハウを生かし、太陽光バリューチェーンの構築を進めるとともに、その他の再生可能エネルギー事業にも取り組んでいきます。



【ドイツ・ミックスドルフの太陽光発電所位置】

【問い合わせ先】

双日株式会社 広報部 03-5520-5383